



現代教育研究所

ISSUE : フォーラム報告、今年度に向けて

学
長
挨拶



金子 朝子 Tomoko Kaneko

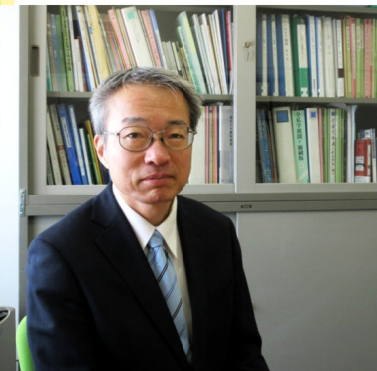
2014年11月に開所した昭和女子大学現代教育研究所は、今年度で4年目を迎えます。これまでのニュースレターや紀要で報告されているように、各研究グループでの活動の成果が次第に現れてきています。

ところどころ3月に「幼稚園教育要領」と「小中学校学習指導要領」の改訂案が示されました。また新しい大学入試制度の議論も進められており、就学前教育から初等・中等・高等教育を見通した「改革」が示されています。

教育界では常に「改革」が叫ばれますが、新しいものを求めると同時に、これまでの実践の中で培われてきたものを大切にしながら、今後の方向を考えることが重要です。そのためには現実を冷静に見る教育研究が必要となります。

本研究所は総合学園である本学の特色を活かして、今日的な教育課題に関する研究・実践を促進し、併せて内外にわたる教育研究・実践の発展に寄与することを目的としています。研究所の活動が、現実の問題を見据えながら、教育の原理や根本を考え、同時に新しい情報や提言を発信していくものになることを期待しています。

所
長
挨拶



友野 清文 Kiyofumi Tomono

現代教育研究所は押谷前所長が兼ねてから構想されていたもので、2014年前期の設立準備委員会での審議を経て、同年11月に開所しました。

その目的について押谷先生は「今日的な教育課題について自由に研究・交流を行うとともに、乳幼児教育から中等教育段階までを中心とした教育についての調査研究・実践を行うこと」と述べられ、同時に「私学である長所を活かし、本学の基盤であるトルストイ教育や私学教育の研究も進めていきます」と書かれています。

本年度で足かけ4年目を迎えにあたり、改めて初心に立ち返って活動を進めたいと考えます。これまでの各研究グループの活動での成果を踏まえ、本年度から研究所としてのコア・プロジェクトを始めるとともに、グループの枠にとらわれない、所員・研究員の活動も促進します。

大学内外の方々への更なる支援をお願い申し上げます。

フォーラムレポート REPORT OF FORUM

第三回現代教育研究所フォーラムが2月11日(土)に80年館西棟6階コスモスホールで開催されました。

「待ったなし!ICT活用による授業改革～未来を拓く“学びの場”を創る」をテーマとし、21世紀の緊要な課題である「教育の情報化」に焦点化し、未来を拓く学びの場としての可能性を探る一助になればという趣旨で行なわれました。

昨年度のフォーラムの来場者同様、約170名の方に来場して頂き、成功裡に終了いたしました。

内容は以下の通りです。



実践事例発表 1

「子どもが“わかる”授業の創造 ～ICTで支える「知りたい!聞きたい!伝えたい!」～」

- ・奥山圭一（東京都世田谷区立東玉川小学校校長）
- ・荒川信行（東京都世田谷区立東玉川小学校主任教諭）

実践事例発表 2

「ICT活用の可能性～AI型授業の促進を目指して～」

- ・小崎康宏（昭和女子大学附属昭和中学・昭和高等学校理科教諭）

奥山先生は東玉川小学校におけるICT機器の導入状況、利活用のポイント及び教員の声をまとめ、報告されました。ICTの利活用には、ひと・もの・かね・じょうほう・ときが重要なポイントになると指摘されました。

荒川先生からは、子どもがわかる授業の創造の実例が報告されました。ICTを活用し、学校、家庭及び地域との連携も順調に行われた現状が紹介されました。

小崎先生は、電子黒板の導入により、授業風景が変化したこと、さらに、電子黒板の導入後、授業展開の実例も説明されました。



ランチョンセミナー

「ICT活用教育の新たな課題 ―授業の「著作権リスク」にどう対応するか」

- ・中野淳（日経BP社 教育とICT Online 編集長）

午前の実践事例発表と午後の講演の間の休憩時間を利用して、日経BP中野氏によるランチョンミーティングが行われました。

ICT教育現場での著作権法についての再認識と、著作権法の例外措置や適用条件など、具体的な観点からの説明がありました。

講演1 「文部科学省が進めるICT活用による教育改革、授業改革の動向と課題」

・新津勝二（文部科学省 初等中等教育局視学官、生涯学習政策局情報教育課 情報教育振興室長）

講演2 「学校現場におけるICT活用による教育改革、授業改革の動向と課題」

・堀田龍也（東北大学大学院情報科学研究科教授）



新津氏は、第4次産業革命の予測を明確にした上で、教育の現状と課題、学習指導要領の改訂、高大接続改革、教育情報化の重要性の四点を中心に話されました。

堀田先生は、これからのICT活用の位置づけを指摘されました。现阶段のICT活用の様子は大きく映して教えるパターンであり、実物投影機が導入されると、ICT活用の頻度が多くなると述べられました。

シンポジウム 「待たなし！ ICT活用による授業改革～動向と具体的展開～」

シンポジスト

- ・堀田龍也（東北大学大学院情報科学研究科教授）
- ・新津勝二（文部科学省 初等中等教育局視学官、生涯学習政策局情報教育課 情報教育振興室長）
- ・奥山圭一（東京都世田谷区立東玉川小学校校長）
- ・荒川信行（東京都世田谷区立東玉川小学校主任教諭）
- ・小崎康宏（昭和女子大学附属昭和中学・昭和高等学校理科教諭）

コーディネーター

- ・押谷由夫（昭和女子大学大学院教授 現代教育研究所所長）
- ・駒谷眞美（昭和女子大学大学院准教授）



コーディネーターから、AL（アクティブ・ラーニング）の視点に立った学習プロセスにおける、ICTを効果的に活用する授業の実施について質問がありました。

新津先生からは、ALについて、すべての授業を変えるのではなく、効果的にICTと他の授業手段を組み合わせ、授業を効率的に行うことが述べられました。

春日部小学校においてプレゼンテーションテストが行われた例が挙げられ、ICT活用により学力が上がり、不登校者数もゼロになったという報告がありました。

さらに、コーディネーターからICT利活用授業の感想を求めると、荒川先生は、実際にすべての子どもたちに満足いく授業ができているかを検証していく必要があると述べられました。

研究グループ活動予定 GROUP ACTIVITY PLANS

現代教育研究所の今年度の方針は、「グループにとどまらない研究」です。外部の協力者を増やしながら、視野を広げつつ、現場に密着する研究を進めて参ります。個人研究も進められるように個人・グループでプロジェクトを立案し、一年を通して計画的に研究を進めていく体制を整えます。各研究グループ活動予定、目標は以下の通りです。

現代教育 研究部門	理科教育 研究グループ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新学習指導要領改定の趣旨に即した理論的・実践的研究を推進します。 2. 小学校研究会や教育委員会主催研修会への指導・助言を通して授業研究を支援します。 3. 研究活動の成果を日本理科教育学会全国大会にて発表し批評を受けます。
	英語教育 研究グループ	H29年度は、学習指導要領改訂に伴い小学校向けの英語教育についての活動を実施します。まずは、公立小学校へ英語教育に関するアンケートを行い、現状把握を進めます。そして、これまで作成してきたMini-ActivityのHPでの公開を進めると共に、小学校向けの特集号としてvol.3を作成します。更に、昨年度に引き続き、第2回レクチャーシリーズを開催します。以上3つの活動に取り組みます。
	道徳教育 研究グループ	今年度は、新しい体制で、志も新たに研究活動を充実させます。テーマは、「特別の教科 道徳」を要とした学校教育全体の道徳教育の充実です。そのために「特別の教科 道徳」はどのように指導を工夫すればよいのか、道徳教育の評価をどのように考え、取り組めばよいのかを中心に、国内外の研究実践を踏まえて提案していきます。
	乳幼児教育 研究グループ	乳幼児教育を取り巻く社会状況は、保育形態の多様化、保護者のニーズの多様化、子どもの質の多様化など、「多様化」の中にあるといってもよいのではないのでしょうか。要因として、少子化、核家族化、都市化、情報化、国際化などによる価値観や生活様式の多様化があると考えられます。こうした社会状況の中で、「子どもの未来のための保育の在り方」について研究を深めたいと考えます。
	表現教育 研究グループ	表現教育グループは、社会や地域に開かれたアート教育・表現教育の可能性を探索しています。H29年度は、地域のアート教育の拠点となっている文化施設の取材を首都圏以外の地域にも広げ、未来の表現教育を展望する作業を続けます。また、表現教育に関するワークショップや講師を招いての研究会・公開講座等の開催を計画しています。
	教育課題 研究グループ	「21世紀能力をいかに捉え、育むか」を研究課題に据え、学校現場と協働した研究開発を展開していく予定です。「日本には日本が蓄積してきた教育財産がある」という考え方にに基づき、私たちは学校現場でGood Practices(卓越した実践)が生み出される組織的な過程に注目しながら、その分析・創造を通じて、学校教育のリ・デザインに貢献していきます。
建学 理念 研究部門	トルストイ教育 研究グループ	本学所蔵のトルストイ関係資料の確認・整理がほぼ終了しました。『トルストイのアズブカ』を読む会も回を重ね、残りの作品も僅かとなりましたが、引き続き皆様のご参加をお待ちしております。また本年度は、大正期トルストイブームにおけるトルストイ教育像の実態を探ろうとする研究の提案もあります。
	私学教育 研究グループ	昨年度は私学教員研修についてのアンケートを実施しました。それを踏まえた聞き取りや実態調査を行い、私学教員のライフコースとらせた育成のあり方について研究します。また新学習指導要領や新しい大学入試・高大接続問題への私学の対応に関する情報収集を行う予定です。

2/11(土)のフォーラムでは、ICTというテーマを機に、事前申し込みやアンケートの方法を大きく変えてみました。ご好評いただきありがとうございます。

今年度は研究所全体で進めるコア・プロジェクトが動き出します。先生方の探究心に負けないようサポートしてまいります。

また、研究所の開所日が一日増えます。研究所の設備も整えましたので、グループを越えた話し合いの場が提供できればと考えています。

現代教育研究所

所在地: 大学6号館(旧2号館東棟)2T01B
開所時間: 月・水・木・金 10:00~16:00

現代教育研究所
Institute of Modern Education